

研究所ニュース

No.75

2021.8.31



特定非営利活動法人

非営利・協同総合研究所いのちとくらし

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-7-8 東京労音お茶の水センター2階

Tel. 03-5840-6567 Fax. 03-5840-6568

E-mail: inoci@inhcc.org <http://www.inhcc.org>

【理事長のページ】(No. 75)

労働者協同組合法の成立に寄せて —イギリス労働者協同組合運動の歴史に触れて—

中川 雄一郎

2020年12月4日に労働者協同組合法が成立し、12月11日に公布された。協同組合の関連法としては42年ぶりの成立である。かつてこの労働者協同組合法(以下、労協法)の制定運動に関わったことのある私にとっても、これは大きな喜びである。また大高研道明治大学教授が協同組合研究誌[季刊]『にじ』(2021 SUMMER No.676)に組まれた「特集：労働者協同組合法と協同組合ネットワークの再構築—協同労働の地域的展開にむけて—」の前書きで語った次の言葉も、私には大きな意味を持つものである：「(42年ぶりという)この年月は、一方で、競争と経済成長を基軸とした資本主義生産様式に重きを置いたわが国の社会・経済政策に『協同』を基本原理とする協同組合組織・事業体の役割が明確に位置づけられてこなかったことを意味する」¹⁾。そしてさらに大高教授はこう論じた²⁾。

また労協法には、協同組合界全体の過去・現在・未来を包含するあらゆる要素が凝縮しているともいえる。法律の成立はむしろ出発点であり、これから検討しなければならない課題は多い。それは労協運動の連続性と非連続性、つまり、これまで労協(延いては協同組合)が大切にしてきた価値・思想を大切にするという意味での連続性と、新しく参入する組織が多様な発想や創造力を持ち込み、活性化させるという意味での非連続性という両面性を射程に入れた議論が求められていることを意味する。(中略)

既存の協同組合においても、たとえば近年、困窮者支援や子ども食堂などに取り組む生協が増えているが、労協法成立を踏まえて、改めて協同組合間提携・協同の新たな展開の芽が生まれることが想定される。また組合員活動の延長線上に労協設立という選択肢も考えられるであろう。設立支援という観点からは、信用協同組合(労金、信金等)による資金面での連携・協力も重要なテーマになる。さらに地域づくりという側面では、労協法第一条において「持続可能で活力ある地域社会の実現

に資することを目的とする」と記されているように、地域の現実とニーズに即した多様で主体的な住民の仕事づくりが目指されることになるが、特に第一次産業にかかわる協同組合（農協・漁協・森林組合等）との連携も重要な課題となってくるであろう。（後略）

私は、このような特性と可能性を内包している労協が労協法に基づいて実際にその事業と運動をどう展開し、それらの成果と能力をどう発展させ、蓄積していくのだろうか、しばし考えてみた。そしてその時に私が参考にした資料が、1999年11月に東京において開催された「労働者協同組合研究 国際フォーラム」で報告された、今は亡き（労働者協同組合連合会元会長）菅野正純氏の「協同の新しい可能性に向かって」であった。

私は、あの国際フォーラムでの菅野氏の報告からおよそ21年後の2020年12月21日付け日本農業新聞の『論点』欄に「労協法の成立：協同の可能性共有を」と題した一文を草し、そのなかで「菅野氏の報告」の一部を書き記しておいた³⁾。「協同の新しい可能性に向かって」と題する菅野氏の報告は、今読み直しても近未来的な「労協の理念」とでもいうべき適正さを強く示唆するものである。すなわち、

① 協同労働は雇用労働に代わる選択肢である。② この選択肢を保障する社会制度を創り出すことの必要性。③ 21世紀を目前にして、労協は組合員の利益のみならず、地域コミュニティと社会全体の利益を追求する「21世紀型協同組合」としての「新しいワーカーズユープの法制度」を提案し、ボランティアや利用者と共に組合員が協同する協同組合を、またハンディキャップを持つ人も組合員となり、かつ労働する主人公になっていく協同組合を目指す。④ これからの時代は、若者たちが人びとの共感のなかで自分らしい仕事を見出し、自分らしい人生を切り開いていくための「援助のための基金」が重要な課題として労協に求められるであろう。

さらに菅野氏は、④の「援助のための基金」についてこう言及した：労協はその「公共的使命」のための「新しい労協財政のあり方」を追求していく。それは、「組合員の営々たる労働のなかで作られ出された剰余金、就労創出の積立金、福祉基金、それに教育基金」を組合員だけでなく地域コミュニティの他の人たちも利用できる「新たな仕事起こしを实践する連帯支援資金」となるだろう。

菅野氏のこの労協アイデンティティについて、すなわち、労協が労協である所以について、「自立した個人は社会で生きる自覚を意識する」とのヘーゲルの「承認の必要性」を援用して言い換えるならば、次のように表現できるかもしれない：市民の「労協に対する期待」、市民のために「労協の果たすべき役割」、そして市民と共に「労協のなし得ること」の実体を明らかにすることである。要するに、「協同労働」が「生活と人間性に不可分な労働である」と人びとによって認識されるのであれば、労協こそ「労働者の裁量と自律性を発揮するのに相応しい『場』である」と、言うことになるだろう。

1980年10月に開催された第27回ICA（国際協同組合同盟）モスクワ大会で採択された『レイドロー報告』（『西暦2000年における協同組合』*Co-operatives in the Year 2000*）第V章「将来の選択・第2優先分野：生産的労働のための協同組合」（*Co-operatives for Productive Labour*）は大きな関心呼んだ。それはレイドロー自身が述べた次の主張に見て取れる⁴⁾。

労働者協同組合は、雇用や所有者感覚よりももっと深い内面的なニーズ、すなわ

ち、人間に特有な個性と労働との関係に触れることになる。1978年に開催された「西暦2000年への挑戦」と題するユネスコの会議で、ブカレスト大学教授は、肉体労働と知的労働の適正な調和を図ることの必要性和、あらゆる最高の価値基準のなかに労働の観念を生活や人格形成に不可欠なものとして取り上げる必要性について述べている。労働者協同組合に関わるこの思考は、従来の伝統的な被雇用者と作業場の関係とを比べてみれば、教授の発言の趣旨にはるかに近いものである。

ところで私は、上記「菅野氏の①～④の報告」を書きながら、イギリス産業革命後期における生産者協同組合をめぐる労働制度について——1891年に『イギリスにおける協同組合運動』を著わした——ベアトリス・ウェップと対立し論争したキリスト教社会主義者 J.M.ラドローの主張を思い出していた。彼は *Tracts on Christian Socialism* でこう強調した⁵⁾。

今やわれわれの任務は、キリスト教社会主義者の目的がいかなる機構によって成し遂げられるのかを明らかにすることである。すなわち、労働者はどのようにして競争制度の下での個人的労働の束縛から自らを解放することができるのか、また自らを解放するために他の人たちの援助を得ることができるのか、あるいは少なくとも現在どの程度まで労働者は誠実な同胞関係 (fellowship) によってその弊害を軽減できるのか、ということなのである。この機構を他の人たちに提示する際にわれわれは、社会を車輪やスプリングの単なる集合と見なし、生きた人間の協力関係 (partnership) と見なさず、また社会に活気を与える形式のみを考慮して、その精神を考慮しない社会機構の盲目的崇拜に異議を唱えなければならない。

ラドローがここで主張していたことは、“競争制度の下に置かれている個々の労働者は、いかにして労働の束縛から解放されるのか”、“労働者は、労働の束縛から自らを解放するために、いかにして他の人たちの援助を得ることができるのか”、そして“労働者は誠実な同胞関係、すなわち、連帯意識を以てすれば、競争制度の弊害を軽減することができるのか”、ということであった。簡潔に言えば、“資本主義的競争下において労働者はどうすれば「協同労働」を実現することができるのか”、である。ラドローは、1848年から1850年初期にかけて、キリスト教社会主義思想に基づいた「協同労働の実現」のための社会改革を唱え、「労働を基礎とする社会的な人間関係のあり様はいかにあるべきか」を人びとに問いかけた。こうしてラドローは、同じキリスト教社会主義者の E.V.ニールやトマス・ヒューズなどと共に労働者生産協同組合運動を支援したのである。

他方、あのロッチデール公正先駆者組合は1854年までに生産事業の「小麦製粉」から手を引き、購買協同組合としてその精力を費やしていった。すなわち、先駆者組合は一時、その発展・成長を背景に、設立10年後の1854年10月の総会において新規約である「1854年規約第2条」に「先駆者組合の目的」として次のような文言を付したのである⁶⁾：「本協同組合の目的は、一般の商人 (dealers) の取り引きと同じように経営することにより、組合員が食料品、燃料品、衣料品、あるいはその他の生活必需品をより有利に購入できるようにする基金を組合員の自発的出資により調達することである」、と。

これに対して、ラドロー、ニール、そしてヒューズなどを中心とするキリスト教社会主義者たちは、彼らの努力を「協同組合法」の成立に注いだ。こうして彼らの努力により1852年に世界最初の近代協同組合法「産業および節約組合法」(〈*The Industrial and Provident Societies Act*〉—正確に訳すと「産業労働および共済組合法」であるかも知れない)が

成立する。日本では余り知られていないが、この時に重要な役割を果たしたのが国会議員であったあのジョン・スチュアート・ミルである。また法律制定に協力した主要な国会議員はほとんど保守党の議員であり、自由党の議員は誠に以て非協力的であった。この当時の自由党支持者の中心は企業経営者であったからであろう。今ではほとんど耳にすることがなくなってしまうが、かつてのイギリスでは時として「トーリー的民主主義」との言葉が行き交うことがあったのである。こうして1852年に「産業および節約組合法」が成立するのであり、そしてこの協同組合法は、三人の法廷弁護士 (barrister) によって、すなわち、ニールが責任者となり、ラドローとヒューズが彼を支えて書き上げた法案に基づいているのである。

紙幅の都合でこれ以上、イギリスの労働者協同組合に関わる歴史を語ることはできないが、私としては、先進諸国における現代労働者協同組合が幅広い運動を実践していることから、改めて先進諸国の現代労働者協同組合の歴史と現状を研究し、労協運動の社会的、経済的、文化的な発展可能性を論究していきたいと思っている。よりよき社会を追い求めて奮闘してきた菅野正純氏に後れを取らぬように。

- 1) 大高研道「特集解題：労働者協同組合法と協同組合ネットワークの再構築—協同労働の地域的展開にむけて—」〔季刊〕『にじ』2021 SUMMER No.676 (一般社団法人 日本協同組合連携機構)、2頁。
- 2) 同上、3頁。
- 3) 論点「労協法の成立：協同の可能性共有を」日本農業新聞、2020年12月21日(月)。
- 4) 日本協同組合学会訳編『西暦2000年における協同組合』日本経済評論社、162頁。
- 5) *Tracts on Christian Socialism*, No. V, p.1.
- 6) *Laws for the Government of the Rochdale Society of Equitable Pioneers*, Rochdale, 1855, p.3.

(なかがわ ゆういちろう、研究所理事長・明治大学名誉教授)

●事務局日程 (5-7月)

【5月】	
7日 第6回事務局会議	29日 共同組織委員長会議参加、アンケート調査依頼
14日 第7回理事会	30日 機関誌75号発行
14日 共同組織の共同調査打合せ	30日 JCA 交流会実行委員会参加
27日 ソーシャル・キャピタル研究会参加	・総会議案送付、NPO書類準備
28日 生協論レビュー研究会参加	・ウェビナー準備(後日動画公開)
31日 「研究所ニュース」No.74発行	・機関誌75号編集
・定期総会準備	
・ニュース・機関誌編集	
・研究助成、奨励研究公募開始	
	【7月】
	8日 研究助成審査委員会
	9日 第1回事務局会議
	16日 第1回理事会
	27日 JCA 交流会実行委員会参加
	28日 『無差別・平等の医療〜』読書会
	・四半期決算、機関誌編集
【6月】	
12日 ロバート・オウエン協会研究集会参加	
19日 定期総会・記念シンポジウム・特別講演	

【副理事長のページ】(No.75)

北三陸紀行

八田 英之

コロナ禍の隙間をつきて、かねて妻が望み居りし北三陸へ、震災の跡、復興の姿訪ねむとて、卯月十一日つとめて（早朝）立出ず。乗りし車はいたって速く、昼四ツ時には沼宮内に着き、そこから女（おみな）の運転する乗り合い大型車（バス）にて久慈に至る。ここにて昼餉せんとせしが、妻車に酔いて食欲なく、簡単な弁当を贖う。久慈の駅にては、出発せんとする車を土地の若者大漁旗打ち振りて見送る。

大漁の旗打ち振りてもてなせる久慈てふ駅の若き人々

三陸鉄道は、今は海からかなり高き所を走りて、洞穴（トンネル）を抜けると海が見え、浜辺を覆って津波防ぎの堤、高々と聳え、人家疎らなり。

洞穴を抜けるそのつど水門の工事目にみゆ三陸鉄道

田野畑駅より乗り合い車（タクシー）にて北山崎白花シャクナゲ荘に向かう。運転手は山崎氏といひ、震災の時は北山崎にいて助かりしが、会社の車は一台しか残らざりしと言ふ。

北山崎は、陸中海岸一の景勝地とぞ。七十丈ほどの断崖、八百段の階段を下りて磯に出づ。岩穿たれて門をなし、そこより海波押し寄せるさま、ものすごし。つとめて朝日を見る。

八百の階段下る荒磯の門をくぐりて浪の寄せくる

まっすぐに我をつきさす赤き道海から朝日北山崎へ

白花石楠花の群生地にて、五月末から六月の頃はさぞやと思わる。宿の食事、珍しきもの多く、とくに釜めしは秀逸、黒昆布てふ海藻の煮びたし美味なり。されど、この日はわれら二人のみの泊り客、夏には数多に客くるを願う。主人の曰く「堤防・水門を作りしために、山からの水の流れが変わり、アワビなど不作なり」。

十二日、ふたたび三陸鉄道にて、宮古に至り、車を借りて浄土ヶ浜に向かふ。五十二年ぶりの再訪。景色は変わらぬように見えしが、岩多く崩しとぞ。小型舟に乗りて青の洞窟見分す。

水底の浄土の岩は様々に変化し緑の光たゆたふ

吉里吉里の浜、防潮堤に囲われ、工事車両の行き来す。ひょうたん島は岩削られて低くなり、弁天堂も流されしが、今灯台は再建され、御堂は工事中と見ゆ。

鵜住居に、「いのちをつなぐ未来館」あり、かつて防災センターの在りしところ。そこに避難せし二百人ほどの人のうち、百六十人が死せるてふ。

鵜住居無残の記憶忘れじといのちをつなぐ未来館建つ

鉄の町釜石らしく、市立の鉄の博物館あり。

鉄の町の歴史を記す建物の屋根の翼は羽ばたかんとす
釜石の南の唐丹まで足を延ばし、満開の桜並木を見つ。

唐丹なる染井吉野の並木道昭和津波のしるしなりとぞ

この日の泊は釜石の職業人宿（ビジネスホテル）。温泉付きが好まし。

十三日、この日に見むと思ひし郷土資料館休館にて、卯の半過ぎ、釜石線で花巻に向かう。

北上の山地を走る鉄道の窓より見ゆる山笑ひ初む

花巻博物館は、旧石器時代からの花巻の歴史を手際良くまとめ、興味深けれど来館者はわれら二人のみ。宮沢賢治記念館はさすがにそれなりの人おりし。階段を昇れば三百段。車道なだらかなれば、そちらをゆく。

記念館へ登る坂道かたはらにカタクリ群がり風にそよげり

ここで家づと（おみやげ）を調して帰路につく。旅の間、コロナ感染の危険を感じることもなかりし。東京から青堀までの電車の中がやや密であったと思ふのみなり。

（はった ふさゆき、研究所副理事長・西上総文化会会長）



【役員リレーエッセイ】

温故知新一新しい労働、生活様式と新しい社会

吉中 文志

ノーベル賞経済学者のミルトン・フリードマンは「真の変革は、危機状況によってのみ可能となる」と述べて新自由主義へ道を開いた。ナオミ・クラインはこれをショックドクトリンと名付けて批判し、惨事便乗型資本主義という言葉が人口に膾炙した。しかし、グローバル資本主義経済に対するこうした批判にもかかわらず、リーマンショック、貧困と格差、気候変動、新型コロナ感染、社会の分断が深刻化した。

東京オリンピックは祝賀資本主義の絶好の機会になるはずであった。震災惨事に便乗したアベノミクスは思うような成果を上げることができず「復興五輪」というわけだ。皮肉なことに、祝賀に便乗した収奪は、グローバル経済を契機とした新型コロナ感染症という惨事によって阻まれた。資本主義は自然の限界を超える破滅的な収奪へと世界を駆り立て過労死や気候変動などをもたらした。究極の自己疎外を招いても突き進まざるをえないところに資本主義の行き詰まりがある。

新型コロナ感染は国民の惨事であるがグローバル企業はこれをチャンスにする。「従来不可能とされた改革に取り組む機会を見過ごすのは必ずしも賢明とはいえない。衝撃による意識変革がプラスに働くこともある」（安西巧 日経新聞 2021年1月18日）というのである。衝撃は菅首相が打ち出した「カーボンニュートラル」のことである。

骨太方針2021では、グリーン、デジタル、活力ある地方創り、少子化対策が成長を生み出す原動力だ。解決すべき公共的課題を技術的解決に流し込み、社会的な解決を回避している。社会保障や医療などの公共財を資本に売り渡す戦略には拍車がかかる。国民の惨事を財政危機にすり替え、税や保険料の応能負担を持ち出して批判をかわそうとしている。新自由主義がもたらした矛盾を成長に利用する基本は変わらず、憲法が規定する国民の諸権利は顧みない。

コロナ禍は国民にとって社会的な災禍である。そのため新自由主義の転換が広く意識されている。東京五輪に対する国家の思惑を批判し、半世紀前の東京五輪で失ったもの

を復興せよ（吉見俊哉 朝日新聞 2021年8月3日）という意見はその一例である。都市の生活の速度を遅らせる、多様性を活かす循環型都市を多核分散的に作る、スピードや効率で競わない、首都高をとっばらう、水辺を呼び戻す、路面電車を復活させる、などのイメージが語られている。

政治、経済、思想・文化の大転換である。政治転換の意義は極めて大きく、来るべき総選挙では政権交代への期待が高まっている。特徴は、世界各国で新自由主義からの転換の先に資本主義とはべつの道を意識する若い世代の広がりである。「相互扶助と自治に基づいた脱成長コミュニズム」を主張する『人新世の「資本論」』（斉藤幸平 2020年）は30万部を超えるベストセラーになっている。2年近くに及ぶコロナ禍の生活は、新しい労働、生活様式を模索する経験となり、思想・文化や経済に対する考え方に大きな影響を与えている。

注目したいのは公共（コモン）の重要性が再認識され、協同組合や協同労働にフォーカスされていることである。NHKのクローズアップ現代で「協同労働」が取り上げられ、朝日新聞のGLOBEでは「協同労働の本場イタリア」が特集された。『人新世の「資本論」』では、消費生活の協同だけでなく協働労働の意義が強調される。際限のない労働や生産の効率化の転換を意識した指摘である。災害や貧困、格差の広がりには多彩な協同を生み出す土壌になる。これに着目して、ポスト資本主義を生み出す協同プラットフォームを強調したのが、『ネクスト・シェア』（ネイサン・シュナイダー）である。一般社団法人日本協同組合連携機構（JCA）はGAF（プラットフォーム資本主義）に対置するプラットフォーム協同組合主義（デジタル経済における協同組合の可能性を探るシンポジウム 2019年）を主張した。BS1スペシャル「ビジョンハッカー～世界をアップデートする若者たち～」は協同のデジタルトランスフォーメーションを想起させた。

『ネクスト・シェア』はイタリア・ボローニャの経験を紹介し、結びにマルティン・ルーサー・キングの「私たちは各々別の船に乗ってここまで来たかもしれませんが、でも、今は同じ船に乗っています。」という言葉を引用する。協働による協同は、深刻な分断に見舞われた社会を修復し、連帯や共同を生み出す、それが同じ船である地球と人類を救う可能性を提示していると主張されている。

ビジョン・ハッカーは未来の世界の変革者という意味だが、番組で紹介されたのは各国の若いアクティビストであった。アマゾンで労働組合を結成するために運動するクリスチャン・スモールズ（30歳）は「大企業に労働者が搾取される社会を変える」と話す。番組は労組結成が従業員投票で否決された再起を期すところで終わったが、ベゾス氏の宇宙旅行を期に運動は広がりを見せている。会社側の投票干渉が認定されて闘いが実を結ぶ可能性が報道されている。（しんぶん赤旗 2021年8月3日、5日）これらの運動は情報技術を駆使して展開されている。デジタル技術には連帯や協同を支える物質的条件としての進化を見出すことができる。プラットフォーム協同組合主義も同様である。

協同や協働は人間の生産、消費活動であり運動である。これらの現場ではデジタルが人間の活動を支える可能性を垣間見せていることに注目しておきたい。仮想と現実の倒錯が限りない欲望を広げ商品市場を拡大する時代にあって貴重なことだ。労働や生活、運動のactual（アクチュアル）、すなわち人間の諸活動が倒錯から免れる役割を果たしていると言えるのではないか。同時に、デジタル技術が、公開や公平、民主主義的な価値との親和性が高い開放系の技術であることにも注目しておきたい。社会全般にとっては価値と使用価値の人間的な関係復活にも通じるのではないか。

現代では地域のそこかしこに協同組合的な活動を見出すことができる。企業に創業時の協同組合的な発想の名残を発見することも少なくない。誰でも利用したことがあるウィキペディア、大学のコンソーシアムやベンチャー起業支援も同様である。農協は協同組合主義の過去と現在を橋渡ししていると見ることもできる。それらの多くが資本主義的な影響から免れることはできないが、そこに次の時代への変革の契機を見出すことができるのではないか。

「多くの株式会社批判論者、『社会的企業』肯定論者に問いたいのは、現在支配的な株式会社の未来がどうなるかが示されない限り、その『社会的企業』論は一定の役割を果たしながらも、ロマン主義から抜け出すことはできないということである。これまでの協同組合やNPOの限界を乗り越えることができないであろうということである」（角瀬保雄 非営利・協同総合研究所のちとくらし「研究所ニュース」No.22, 2008.05）。また、民医連の事業所にとっては、「21世紀の社会を考える時、市場原理主義に対抗するものとしての『公共性』『公益性』とともに、『非営利・協同』と結びついた企業性、市場性が重要になる」（角瀬保雄 法政大学経営学会「経営志林」2010年10月）という指摘が実践的に試される時代である。民医連法人が協同のプラットフォームや基盤づくりへ参画していくことは、街づくり運動を進めて21世紀の新しい社会をめざすうえで重要な課題になるのではないか。

(よしなか たけし、研究所理事・公益社団法人京都保健会理事長)

訃報

当研究所の顧問・名誉理事長である角瀬保雄・法政大学名誉教授が、2021年8月2日に逝去されました。89歳でした。謹んでご冥福をお祈りいたします。

星の王子さまの翻訳

石塚 秀雄

●フランスの作家サンテグジュペリの『星の王子さま』という大人の童話は、フランス語科の女子大生ならば、たいていは原書を小脇に抱えて大学構内を歩くあるいは歩きたいなどと思った作品である。私も女子大生ではないが、やはり原書をもってかつつけて街を歩きたいなど妄想する口である。私はサンテグジュペリの読者で、いまは廃止されたフランスフランの50フラン紙幣を額に飾っている。これはサンテグジュペリを記念したお札で星の王子さまも登場している。開運なんでも鑑定団に出したら5倍くらいの値段はつくだろう。

日本でなんでこの作品がこんなに人気があるのかは定かではないが、文章と挿絵の両方をサンテグジュペリが書いており、童話風でそんなに長くないから読みやすい、また内容も含蓄に富んでいるということだろうか。

●日本語の翻訳は1953年に最初に翻訳した内藤濯訳がやはり堂々の横網格で、いまも

ってその人気は変わらない。しかし、翻訳とは不思議なもので、いくつもの翻訳本が出るものなのである。翻訳というのは訳者の解釈なのだと言えるくらい、いくつもの翻訳が出ておかまわないし、出るのが当たり前だとも言えるのである。『星の王子さま』の日本語訳は手元にあるだけでも 8 冊ある。つまり 8 人の人がそれぞれに翻訳しているわけである。聞くとところによれば 20 以上の翻訳本があるそうである。翻訳に正解は一つであると思っている人にとっては意外だと思われるかもしれないが、違うからあるいは翻訳者として自分はこう解釈したいという欲求が翻訳者にはあるから異なる翻訳本が出版される。そこでどのくらい違うのかということでヒマ人の癖として比較をしてみた。

●まずタイトルであるが、原文は **Le Petit Prince** である。直訳では「小さな王子」となるが、野崎訳の『ちいさな王子』を除いては全員内藤訳の『星の王子さま』を踏襲している。やはり「星の王子さま」のネーミングに代わるものはなかなかつけられないものと思われる。その他のヨーロッパ語のタイトルも **Der Kleine Prinz** とか **Little Prince** といったようなもので原書と変わらないのは当然といえば当然であるが、日本語の「王子さま」の敬称がやはり日本語の語感としては、愛らしさとか親しさとか敬愛の気持ちが触発されるものであろう。ではサンテグジュペリ本人がたとえば、「星の王子さま」 **Le Petit Prince d'Etoile** とか **Le Petit Prince de Petit Planète** などという題名をつけなかったのかと想像するに、それではやはりタイトルとしては冗長過ぎるということで、日本語としては「星の」と補うことでタイトルとしては鉄板のものになったのだと思われる。

●すでに内藤訳という名訳があるのになお、自分の翻訳を出したいという欲求は他人迷惑なきらいがないでもないが、それは訳者の動機であるからどうしようもない。ここで有名な箇所を例文として取り出して、翻訳の比較を一覧表にしてみた。

訳者は、内藤濯はフランス文学者、池澤夏樹は作家、河野万里子は翻訳家、倉橋由美子は作家、野崎歓はフランス文学者、管啓次郎は比較文学者・詩人、三田誠広は作家、ドリアン助川は作家・エンターテイナー・最近は大学教授である。

全 26 章のうち第 21 章にキツネが登場し、王子さまと会話を交わす場面である。その一部を内藤訳を見本に掲げる。

「きみだれだい？ とてもきれいなふうしてるじゃないか……」と、王子さまがいました。

「おれ、キツネだよ」と、キツネが言いました。

「ぼくと遊ばないかい？ ぼく、ほんとにかなしいんだから……」と、王子さまはキツネにいました。

「おれ、あんたと遊べないよ。飼いならされちゃいないんだから」と、キツネがいました。

「そうか、失敬したな」と、王子さまがいました。

でも、じっと考えたあとで、王子さまは、いいました。

「<飼いならす>って、それ、なんのことだい？」

「あんた、この人じゃないな。いったい、なにさがしてるのかい？」

中略

「ちがう、友だちさがしてるんだよ。<飼いならす>って、それなんのことだい？」

「よく忘れられていることだね。<仲よくなる>ってということさ。」

表

訳者	Apprivoiser	Je ne suis pas apprivoisé.	Ça signifie « créer des liens....
内藤濯	飼いならず	飼いならされちゃいないんだから	〈仲よくなる〉っていうことさ
池澤夏樹	飼い慣らす	おれは飼い慣らされていないから	それは、絆を作る、ってことさ
河野万里子	なつく	なついてないから	それはね、『絆を結ぶ』ということだよ・・・
倉橋由美子	仲良しになる	まだ仲良しになってないからね	『関係をつくる』ってことさ
野崎歓	なつかせる	だってぼく、まだなつかせてもらってないもの	『きずなを作る』という意味なんだ
管啓次郎	なつく	なついてないからね	〈絆を作る〉ということさ・・・
三田誠広	なついて	まだ《なついて》いないからね	《なつく》というのは、《きずな》で結ばれるってことさ
ドリアン助川	なついて	だってボク、きみになつけないもん	なつくってことは、心を寄せることなんだ
石塚試訳	なじむ, 馴れる	なじんでいないからさ	それは、「絆を結ぶ」ってことさ

●ほとんどの翻訳者の訳では、apprivoiser は動物に使う意味を採用しているが、人間の場合は、プチロベール辞典 Petit Robert によれば、Devenir moins farouche. Plus sociable, plus familier となっている。すなわち「人になつかない、飼い慣らしにくい。より社交的、なれ親しい」といった意味となる。ちなみにルソーの文章が例文として示されている。

“Je pris le temps de m’apprivoiser à cette idée”. Rousseau 「この考えが腑に落ちるまで時間がかかった」とでも訳せるか。

表の例文では、子供にも分かる文ということであれば、「仲良くなる」が一番わかりやすいであろう。しかし、理屈でいえば「関係性をつくる」であろう。例、親族関係、外交関係。「絆を作る」と「絆を結ぶ」は後者がより関係性が濃密であろう。lien は英語では bond 例、友情を結ぶ。しかし、拘束、束縛という意味もある。例、包帯。

私の好みから言えば、一番良い訳は倉橋由美子訳である。倉橋由美子は明治大学在学中に作家としてデビューしたが、やはり作家は一番文章を気にかける人種ではないだろうか。倉橋の「星の王子さま」理解が一番深いような気がするのである。とはいえ、関係を作るでは子供読者にはちょっと難しいかもしれない。しかし、もともと大人の童話として、子供にも読んで貰いたいものとして書かれたと思われるので、私の試訳ではやはり「きずな」という言葉を採用している。わかりやすさを優先したからである。「飼い慣らされる」か「なつく」かを比較すると、「飼い慣らされる」という訳にも非常な魅力を感じることは確かである。しかし、それでは子供に対するメッセージ性が強すぎるような気もするのである。私は「なじむ」という訳を当てたが、あまり馴染まないかもし

れない。

●各翻訳者の訳を読んでみると、良い作家はやはり翻訳でもよく考えて文章化して読みやすい文章を書いているという感じがする。翻訳家は外国語ができすぎるので、多少原文に引きずられているような気がする。内藤訳は名訳ではあるが、やはり時代的な古さもところどころ感じさせる。それがいろいろな人が自分が翻訳するといっって参戦してきた理由かもしれない。中には、どうもフランス語がよく分からず、先人の翻訳を参考にしながら、見栄えだけよく訳しているような気配の人もある。それはあまり感心しない。

翻訳というのはことほどさように様々な解釈がされる。直訳ではよく分からないのが翻訳で、原文どおりということでは意味が通じないことが多いのである。翻訳は原文が何を言いたいのかを知ることが大事だが、そここのところが、社会や文化や価値観がちがったりするのでわかりづらいのである。しかし、翻訳の苦労話は読者には関係ないので、やはり翻訳したいという気持ちが翻訳者の最大の動機なのである。

(いしづか ひでお、研究所主任研究員)

新型コロナワクチン体験記 (2021年8月)

竹野 ユキコ

新型コロナワクチンを予約して8月上旬までに接種できたので、その顛末を記録したい。私が住む杉並区の場合、ワクチン接種券自体は7月初旬には届いた。世代ごとに予約開始日が異なり、接種券と同封の書類では私の世代は7月27日から予約とされていた。しかし後日、自治体ウェブサイトとSNSでは予約日前倒し変更と案内があった。これでは予約日変更を知る人と知らない人が出ると思ったが、ともかく当日の夜、パソコンから自治体のウェブサイトを開いた。すると「正午から2時間で予約枠が埋まりました」とすでに表示されている。「こんなにも早く埋まってしまうのか、日中は急ぎの仕事があつて確認できなかったのに」と思いながら、それでも予約サイトへ移動した。

予約サイトにログインして「会場から探す」を選ぶが、130件以上の会場がすべて「空きなし」と表示される。時間をおいて確認すると、まれに「空きあり」の会場が表示される。そのあとは急いで日付と時間を選び予約ボタンを押すものの、たいていは「予約することができませんでした」と画面に表示されて終わる。予約枠の獲得競争に負けたのだ。はるか昔の電話による公演チケット予約を思い出させる敗北感だった。結局、予約初日は2回で諦めてしまった。

ワクチン接種の予約が取れないことには話にならないので、日を改めてさらにしつこく確認するようにした。朝昼晩と確認するのを数日間繰り返し、やっと1回目の予約ができた。さらに数日かけて会場検索を繰り返し、何とか2回目も予約できた。あとは期日に接種会場へ行くだけとなり、ようやく予約騒ぎから逃れることができたのでほっとした。その後の予約受付状況については確認しなかったが、8月12日現在、自治体ウェブサイトによると予約は2回目未接種優先、電話受付のみである(さらに後日、予約

サイトからも予約可能となったがすぐに埋まり、再び電話のみになったようだ)。

新型コロナのワクチン接種は任意であるが、さまざまな専門家が接種を推奨している。自治体からは接種券が送られてきて無料である。それなのに、接種予約をするには各人が時間と労力を大量に使わなければ予約できないシステムであることに矛盾を感じた。パソコンを使えない人、予約する時間を確保できない人、システムが分からなかった人はどうすればいいのか。電話で予約しようにも、杉並区のワクチン接種コールセンターは「ナビダイヤル」のため、通話料が高くつく。携帯各社がナビダイヤルにかける際には料金に注意するようにと喚起したことは、新聞記事にもなっていた。

後日、厚労省の接種総合案内サイト「コロナワクチンナビ」から探す方が、各自治体のサイトから探すよりも予約できることもあるようだ、という情報をインターネットで見つけた。そもそも自治体の受付が2週間近く前倒しになったことも、自治体ウェブサイトを確認しないとわからなかったし、当日キャンセル待ちも条件の合う人のみが見える手段である。さらにワクチン接種券は住民登録のある人に届くもので、誰もが手にできる状況とは言えない。こうした面からの格差も拡大するばかりではと思える。

接種会場での案内・接種は流れるように進み、スムーズだった。国からのワクチン供給などの制限があるなかで、自治体の現場は工夫をこらしているのだろうと推測する。しかし、そもそものワクチン確保・予約を含めたシステム全体に問題があるのではないかという気持ちは消えない。2020年には、布マスク（アベノマスク）配布、特別定額給付金支給（世帯主がまとめて受給）、GoTo キャンペーン（感染拡大により停止）が行われた。しかし1年以上経っても、検査体制の強化や病床確保については進まず、度重なる緊急事態宣言で自粛を要請される一方、ワクチン供給が不十分ななかで東京五輪は開催された。政策や方針に首尾一貫したものが見えないので、政府や行政には実は核となる基準がなく、目先の対応でコロナ禍に当たっているのではないかという疑問を持たざるを得ない。非正規公務員の増大、保健所の削減、公立・公的病院の再編成など、公共サービスでも効率や成果を追求することが進んだ。その結果として目先の成果獲得が優先となり、人々の生命や生活を全体で考えることが軽視される方に影響してしまっているのではないか。コロナ禍の現状を、経緯を踏まえて今後検証することは将来への示唆となるだろう。その意味でも、研究することは大切だと改めて思う。

しかしなにより堪えたのは、ワクチン予約枠獲得競争を通して、自分や家族さえ良ければいい、競争に勝てばいいという思考法に、自分がどっぷりと浸かっている自覚をさせられたことだった。どんな社会を望むのかと問われれば、人々が互いに尊重される社会だと思っていた。しかし、協同や共感が大切という言葉は表面上に過ぎず、自分の非常時にはふき飛んでしまう、自分はそんな程度なのだと思い知らされてしまった。コロナ禍は社会の問題を顕在化したに過ぎないという指摘が、これほどに自分を打ちのめすものとは思わなかった。競争は、何かを得るために他者を押し除けることとなる。時には競争も必要ではあるが、競争のみで成り立つ社会は、居心地が良いものとは私には思えない。自分の中にある排除の意識とどう折り合いをつけられるのか、どうすれば人々が互いに尊重される社会を目指すことができるのかを考えたい。

副反応については、40代・50代の私と家族は頭痛と倦怠感があつたが発熱はなく、80代の親は24時間後に38度台の発熱となった。いずれも解熱剤を飲んで、翌日には回復した。

(たけの ゆきこ、研究所事務局長・研究員)